

卒寿の日に

田口 幸子 福島県須賀川市 六十四歳

母さん、変りないですか。

長滞在し、「元気でいるんだよ」と言いながら帰った後は、ポツカリと穴があいたようで、寂しいです。

今、私はひとりで、縁側に腰をおろし、庭をながめています。母さんが、まぶしそうに手をかざして、花々をながめていた姿や、一緒に草取りをした日に思いをはせながら。母さんが、両手でつつむようにして持ってきて植えてくれた白木蓮は、太い幹になり、毎年、真白な大きい花びらをつけ、風雨に動じず、いつも勇気づけてくれます。

今、風が、金木犀の残り香を運び、山茶花の葉がゆれています。華麗なクレマチスのそばで、エンジェルラベンダー、ペチュニア、ナデシコ、ミニバラ、ノウゼンカヅラが、仲良く並び、心地良さそうに、陽をあびています。小さな庭なのに、私達家族と時を刻み、歳月を共にし、癒し見守り続けてくれた庭。

時には、萎えてしまった心に、大きな力をくれ、何が起きても、必ず、季節の花びらをつけ、強くて、たおやかな所は、母さんと重ねてしまいます。

「母さん、来年は卒寿を迎えるね」

その時は、母さんの好きな牡丹を植えようね。母さん、又、元気で来てね。待っています。一緒に庭をながめている時の静かな時間は、至福の時ですね。